今、島内でどれぐらい消費をしているのか、そして島外でどれぐらい出荷をしているのか。また、海外等へ出荷されているのかが分かれば答弁をお願いいたします。

○議長（初村　久藏君）　農林水産部長、黒岩慶有君。

○農林水産部長（黒岩　慶有君）　お答えいたします。

今、アナゴを活魚として島外に出荷されている民間の企業様が４社と認識しております。アナゴ籠船団の組合員は３０名ほどおりますが、その企業と相対取引をされている関係で、島内にどのぐらい流通しているのかというのは今のところつかめていないという状況でございます。

以上でございます。

○議長（初村　久藏君）　１番、糸瀬雅之君。

○議員（１番　糸瀬　雅之君）　つかめていないのはつかめていないで構いませんが、やはり国内観光客や韓国人観光客は対馬のアナゴを食べに来るのに、今、飲食店ではアナゴが手に入らず食べられない状況でございます。対馬島内には３０隻ほどと先ほど部長も答弁をされましたが、アナゴ船団のこの状態が続きますと、もう近い将来、対馬のアナゴの漁獲量は危機的な状況であるということを市長にお伝えしておきます。今、対馬の市政２０周年のロゴマークの２０のゼロのところにアナゴが入ってますよね。市長、アナゴがいなくなったらこのロゴマークのアナゴは取らないとだめですよ。だから、これだけアナゴの漁師さんは困っているということをお伝えしておきます。

以上でございます。ありがとうございました。

○議長（初村　久藏君）　これで、糸瀬雅之の質問は終わりました。

○議長（初村　久藏君）　昼食休憩とします。再開は１時０５分からといたします。

午前11時56分休憩

午後１時05分再開

○議長（初村　久藏君）　再開します。

午前に引き続き、市政一般質問を行います。１０番、小島徳重君。

○議員（１０番　小島　徳重君）　皆さん、こんにちは。１０番議員、対政会の小島徳重です。

３項目通告しておりましたが、２項目めの常設型住民投票条例の制定については、通告を取り下げさせていただきたいと思います。御迷惑をかけますが、そのようによろしくお願いいたします。

まず、１項目は対馬市ＳＤＧｓ未来都市計画及びアクションプランについてお尋ねをします。

１点目、対馬市ＳＤＧｓ未来都市計画及びアクションプランのビジョンは、市民に浸透し、目

指す島の姿が共有されているかお尋ねします。

２点目、ビジョン共有のためにどのような方策が実施されているかお尋ねをします。

２項目、サツマイモを原料とするせんの品不足解消についてお尋ねします。

サツマイモの作付の減少、せん製造の担い手不足等によりせんが品不足になり、ろくべえなど対馬を代表する郷土料理が飲食店等で欠品状態になっています。対馬の貴重な伝統料理を絶やさないためにも、ソバの栽培と同様に、サツマイモ・せんの生産者を補助する制度は設定できないでしょうか。市長の見解を伺います。

以上、２項目３点について、御答弁をお願いします。

必要に応じて、後ほど一問一答での御答弁をお願いしたいと思います。以上です。

○議長（初村　久藏君）　市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝　尚喜君）　小島議員の質問にお答えいたします。

本市のＳＤＧｓの推進につきましては、対馬の未来のための羅針盤となる対馬市ＳＤＧｓアクションプランを昨年６月に策定し、取組を進めているところでございます。議員から御質問がありました将来のビジョンは、市民に浸透し、目指す島の姿が共有されているのか。また、ビジョン共有のためどのような方策が実施されているかについてでございますが、本市のＳＤＧｓ推進の周知につきましては、市のホームページ、ＣＡＴＶなどでお知らせしており、広報ではＳＤＧｓコーナーを設け、毎月ＳＤＧｓに係る記事を掲載し、広く周知しているところであります。

ＳＤＧｓの推進を支える重要施策としまして、対馬高校のＥＳＤ対馬学や島内の学校でＳＤＧｓに関する講話等を行う学校教育支援対馬グローカル大学を通した人材育成に取り組んでおります。このグローカル大学で実施している高校生ゼミと大学生ゼミでは、８月１８日から２泊３日で「対馬の暮らしの未来を考え、その未来を発信しよう」をテーマに現地実習を行いました。この現地実習では、千尋藻地区を中心に地域の方々の御協力をいただき、参加した学生も対馬の現状を知るよい機会となりました。このほかにも周知だけでなく、一緒に取り組む仲間づくりのため、対馬ＳＤＧｓパートナーズ制度を設け、ＳＤＧｓの達成に向けた取組、または対馬市ＳＤＧｓアクションプランに沿って活動することを宣言した企業、団体等の登録を推進しているところであります。

企業との連携につきましては、関西経済同友会等との連携協定に基づき進めております対馬モデルでございますが、本市の課題であります漂着ごみを活用した新たなビジネスを生み出し、島内の循環経済を構築しようとするものであり、２０２５年開催予定の大阪・関西万博でその対馬モデルを世界に発信したいと考えているところでございます。

また、昨年度からＳＤＧｓの１７のゴールにかけて毎月１７日に上地区、中地区、下地区で交互にＳＤＧｓカフェを開催し、環境・社会・経済の問題解決や新しい価値創造に挑む人の話を聞

き、参加者全員でＳＤＧｓの取組へのアイデアを出し合いながらＳＤＧｓの推進を図っており、個々に参画している企業、団体、市民からもＳＤＧｓに取り組む仲間づくりが広がってくれることを期待しております。これらの取組によりまして本市のＳＤＧｓの推進につきましては、徐々にではありますが市民にも共有され、浸透してきているものと考えております。

２点目は取下げということでございますので、次に３点目のサツマイモを原料とするせんの品不足解消についてでございますが、せんとはサツマイモのでん粉からつくられるもので、冬の寒い時期に生芋を砕き、水に漬け込み、こして何度もあくを抜き、天日で乾燥、発酵をさせて繰り返すなど複雑な工程を経て抽出したものをだんご状に丸め乾燥させたものがせんだんご、または、鼻高だんごと呼ばれ、その製造には約３か月間かかるようでございます。江戸時代に農地が少ない対馬における主食でもあったサツマイモの保存方法として、先人の知恵によりその技法が確立され、日本では対馬だけに見られるものと言われております。

平成２５年には対馬のスローフードとして、せんが日本スローフード協会の味の箱船登録食品として認定され、その価値観、重要性を認識しているところでございます。せんだんご作りは、しゅうとめから嫁、また母から子へと代々受け継がれてきた技法ではございますが、複雑な工程で極めて手間がかかるため、食が豊かになった今日では一部の農家でしか作られなくなっております。

また、農家は一般的に自家消費用として作るため、あまり市場には出回らないことから、正確な生産量の把握は困難な状況にあります。

対馬の郷土料理でありますろくべえを提供している飲食店は、現在、島内で１３店舗あり、近年、一部のサツマイモの生産地において土壌伝染病が発生し、生産量が大きく落ちたことからろくべえを提供できなかった飲食店もあったようですが、全体的には大きな影響はなかったものと認識しているところでございます。これまで対馬農協がせんだんごに適した品種の試験や生産性について実証実験を行っておりますが、結果として、改良された最近の品種より従来から対馬で栽培されてきた品種のほうがでん粉の歩留りが高いため、せん作りには適しており、また、採算性につきましては、収量が少ない上、取引単価が安いことから、なりわいとして成り立たないとの報告を受けております。

また、東京農大による短期間でせんだんごを作る速醸実証を行っておりますが、速醸できることは確認できたものの、本来のせんだんごと比較し、再現性、安全性、生産コストで課題の残る結果となっております。伝統料理を絶やさないためにも、ソバと同様にサツマイモの生産者に補助すべきではないかとの御質問ですが、対馬特有の貴重なせんだんごの技法を守っていくためには、行政としての支援も必要であると考えておりまして、また、伝統料理を絶やさないためには生産量を増やす必要もありますので、どのような形で支援ができるか、今後、検討をしてまいり

ます。対馬にのみ引き継がれてきたせん文化を次の世代に引き継ぐためには、せんだんごを作る方の継承も重要であり、そのためにはせんだんごの価値を高め、利益につながる仕組みづくりが必要でありますので、今後、関係機関と連携して取り組んでまいります。

以上でございます。

○議長（初村　久藏君）　１０番、小島徳重君。

○議員（１０番　小島　徳重君）　御答弁ありがとうございました。一問一答でまたお尋ねをしたいと思うんですが、その前にちょっと２点だけ、質問とちょっと離れるんですけども、話をさせていただきたいと思います。

この本議会に選挙制度の公費負担という条例が提案されましたね。このことは大変喜ばしいことで、成立することを期待をしておりまして、このことは２年前の令和３年の６月定例会で私質問をさせていただいて、そのときは選管の委員長さん、必要性分かる、そして市長もそういうふうに答弁されたんですけど、財政的になかなか大変なところがありますよという話だったんで、もう２年間たって駄目かなと思っとったら今度いい提案がありましたので、これ大変成立を待ってまた詳しいことがお知らせがあると思いますが、選挙の公費負担ということで対馬市がほかの都市よりも先陣切っての動きじゃないかなと思っておりますので、期待をしております。まずお礼とこれからの選挙をやりやすいということでお話をさせてもらいました。

それからもう一つ、市長も大変この頃は御多忙でお疲れ、大変だろうと思いますが、８月の２８日だったですかね、私、厳原に夕方おりましたら、市役所の職員、町なかで三、四人のグループの人たちが夕方ごみ拾いをしてあったんですね。私が誰か分からなかったらうちの者が後で「あれは市役所の若い人たちですよ」とこう言ったから、何組も通りをあちこちやってありましたので、大変いい光景を見させていただいたなということで、ここ二、三年いろいろ職員の不祥事たくさんありまして、市職員の質の問題とか、あるいは職員としてのモラルとかということが言われていますけど、そういういい光景を見ましたので、これも市民の皆さんにも、厳原の人は多分見てあると思いますが、私たちはなかなか厳原でそういう光景を見ないから、いい光景として紹介をさせていただきました。このことはずっと続いているんですかね。職員の方のごみ拾い清掃は、ちょっとお尋ねします。

○議長（初村　久藏君）　市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝　尚喜君）　私も、実は夕方ちょっと茶屋町のほうに歩いていっているときにその職員が頑張っている姿を拝見したわけですけども、後で聞きますと職員組合関係のほうが福祉活動の一環で実施をしているというようなことで聞いております。私自身も大変感謝をしている次第であります。

○議長（初村　久藏君）　１０番、小島徳重君。

○議員（１０番　小島　徳重君）　そういうことで市長の顔もそういう話をされるときはとてもにこやかでいい顔でございましたから、ありがとうございました。その調子でまた御答弁もいただければ幸いかと思います。

それで今日のＳＤＧｓの未来都市関係のビジョン関係と関係があるんですが、実は昨日の例の請願関係のことについてちょっと確認をさせていただきたいんですけど、このことの中で市長のコメントがマスコミ各社にもいろいろ出ていて、その内容が各社どこの部分、別々にインタビューされたのか、それとも同じインタビューをどこかの部分だけ切り取られたのかよく分からないところがあるんで、一応、確認をさせてもらったほうがいいかなと思っています。

まず１点目、重大な採決であるとそういうふうにおっしゃって、そしてその後にそれだから市長としてはその後の判断をどうされるかということでいろいろ話をされたと思います。重い議決だと受け止めていると市長が述べたとこういうふうに書いてあります。その後に処分場の建設まで含めたところまでの採決だと理解しているというふうなコメントが載っています。このことはそのとおりですか。

○議長（初村　久藏君）　市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝　尚喜君）　このことにつきましてはこの質問のＳＤＧｓ未来都市に関係なく、昨日の議会が終わった際の私の記者会見のコメントということですか。要は私も昨日、議会が終わった後に記者会見をさせていただいたところであります。その中でこの本日の議決は大変重いものというふうに受け止めているということと合わせまして、本日のこの採決についてはこの議場でも確認されたように、最終処分施設の建設までを網羅した、含んだ議決であるというふうに判断しておりますということでコメントはさせていただいております。

○議長（初村　久藏君）　１０番、小島徳重君。

○議員（１０番　小島　徳重君）　ありがとうございました。そのことで議長なりの発言を受けて市長もそういうふうに受け止めてあるということで安心しました。ところが一部漏れ聞くところによると、最終処分場までの話じゃなくて文献調査云々で判断をしたというような声も一部聞こえますので、一応、確認だけをさせていただきました。

それから、もう一つのコメントの中で将来的に本当に安心、安全に住めるのか、島の独特の第１次産業、これが永続的に継続していけるのか、このことが私は一番懸念しておりますという、このこともそのとおりですか。

○議長（初村　久藏君）　小島議員、ちょっと質問の趣旨を違うけんがあんまりそこまで突っ込まんで。

○議員（１０番　小島　徳重君）　突っ込んでいません。確認だけ。

○議長（初村　久藏君）　質問してください。

市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝　尚喜君）　私もこれまでいろいろな関係機関からのお話も聞く中、そしてまた自分のほうでもいろいろな書籍等も拝見させていただく中で絶対安全とは言えないというような中で、もしものことがあったときの風評被害、これによって対馬の基幹産業であります漁業等に被害が出ることが起きてはいけないという思いの中からそのようなコメントをさせていただいたということで理解していただきたいと思います。

○議長（初村　久藏君）　１０番、小島徳重君。

○議員（１０番　小島　徳重君）　ありがとうございました。一応、議長も御心配してくださいましたけど、そういう確認をさせてもらっただけですから。それでなぜこのことを確認したかといいますと、今日のいわゆる私の質問に上げておりました未来都市計画のビジョンやアクションプランが市民の間に十分浸透しているかということに関連してお尋ねをしたんです。市長のほうの総括的な今の御答弁は、徐々に浸透してきているというふうに私は受け止めました。個別のことは幾つか言われましたけどね。そういう総括的な受け止め方の中で徐々に、急にここプランをつくってまだ年数２年から３年ですから、市長が答弁されたとおりだと思います。ところがやはりこのことをしっかり捉えておかないとこれから先のことがいろんな根幹がしっかりしていないと市の行政を進める上で不安定なことになるからと思ってお尋ねしているんです。それで私の受け止め方は、市長はまだ徐々に浸透しているということなんですが、そのことで核ごみの問題が起こったんですよね。最終処分場を対馬に導入し受け入れることを前提に文献調査もやろうと、それから議会で検討してくださいというような請願が出たわけですけどね。この未来都市計画のビジョンが市民の間に徹底していたなら、商工会さんなり、建設業界団体さんが出されたような請願は出てこないんじゃなかったかなと。商工会のほうは議論してくださいだからまだ分かるとして、建設業界は推進をしてくださいということが出たわけですが、そのことについて市長はどういうふうな認識をされますか。

○議長（初村　久藏君）　市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝　尚喜君）　非常に難しい問題だというふうに思いますけども、要はこれがこのＳＤＧｓの理念が市民に一様に伝われば、議員おっしゃられるようなことはなかったのかなとは思いますけども、要は一部の建設業協会の対馬支部の関係者とか、そういう方たちとお話をさせていただいた際には、やはり建設業協会として、この人口減少だけではなくて、その業界の将来の事業量と申しますか、そこら辺を心配をしてでのそのような意見ではなかったかというふうに私は受け止めております。

○議長（初村　久藏君）　１０番、小島徳重君。

○議員（１０番　小島　徳重君）　一応そういう御答弁で建設業界はそういう視点で出されました。

そのことはまた私たちも対馬の未来を考えてという、対馬の地域づくりのためにということで建設業界も、あるいは商工会は議論をしてくださいということである意味での理解はしながら、やはりこのことの中ではどうしても経済的な循環、経済が成り立たないとそういうふうな商工会の方、あるいは建設業界の方も心配をされて出されることになるわけです。そこでＳＤＧｓの未来都市計画の中で、やはりどういうふうな方策を立てるのかということで今日はそこに質問をしたいんですけども、昨日、市長、ほかのマスコミのところではお金だけのことで判断するんじゃないということもおっしゃいましたけども、やはり経済が循環しないと市民生活が安定しないと対馬のビジョンと合わないような核のごみということが出てくるだろうと思うんです。だからそのあたりのために経済を循環させるための方策として、今、幾つか具体的な例を述べられましたけども、そのことが進捗度としてはどれぐらいのところまでいろんな方策がいっているかということをお尋ねをしたいと思います。これは部長でも結構です。

○議長（初村　久藏君）　しまづくり推進部長、伊賀敏治君。

○しまづくり推進部長（伊賀　敏治君）　進捗状況ということですけども、そこが今現在ここまで進んでいるという明確に答えられるところまでは正直来ていないと思っています。令和２年に未来都市に選定されまして、令和４年度にアクションプランを作成して、昨年の６月でしたかね、議会のほうに説明させていただいてそのアクションプランができたわけですけども、それができた後に本格的に今、取組を始めてきたところでございまして、その中で一つ具体的と言えるかどうかまでは分かりませんけども、市長も度々お話をされていますけど、関西経済同友会との連携協定によりましてそこの中で、今回ＳＤＧｓ未来都市が１７のうちの特に１４番の「海の豊かさを守ろう」というところをメインターゲットにしておりまして、それを海ごみをどう生かしていくかというところ、そこに新しい資源として新しいビジネスとすることもできないかということを関西経済同友会の中のサラヤ株式会社さん、そして関西再資源ネットワークさんのところが中心になって、今、市長もおっしゃった対馬モデルというのを２０２５年までに何らかの形で発信しようというところで今、取組を始めたところで、今年の末か来年度ぐらいまでにはそこをマネジメントするような会社の組織でありますとか、会社組織になるのか、新たな団体になるか分かりませんけども、そこら辺は模索している途中でありまして、来年度ぐらいまでには何か少し形が見えてくるようになるのかなという状況でございます。

○議長（初村　久藏君）　１０番、小島徳重君。

○議員（１０番　小島　徳重君）　ありがとうございました。今、具体的な例も一つ出てきました。私はしまづくりのところに行って資料をいただいた中に、これ第２次の計画の中に多分入っていると思うんですが、資金調達メカニズムとして考えられる仕組みというのがございますよね。この中の具体的なことをもう少し部長でも結構ですから説明してみてください。そうすると議員、

私たちも、市はこういうことを打ち出そうとしているんだなということで安心をするし、核ごみに頼らないでもこういうことができるんだなということがあると思うんです。そのあたりを何か構想としてでも結構ですし、着手したものであればなおさらいいわけですが、そのあたりをお話ください。

○議長（初村　久藏君）　しまづくり推進部長、伊賀敏治君。

○しまづくり推進部長（伊賀　敏治君）　あと何があるかということでございますけども、今、新たに考えているのは、今回の補正予算にも計上させてもらっていますけども、漂着ごみ、海ごみをアートとして欧米系の富裕層であったりとか、もちろん国内も含めてですけども、そういったところに社会貢献を目的として買っていただいて、それを海ごみの財源の一部にできないかというようなことであるとか、もう一つは海ごみを作るのとは別にデジタルアートというようなこともできないかというようなところを今後、検討していきたいということで、今回９月の補正にも委託料を計上させてもらっていますので、そこらあたりの研究をしていきたいというふうに思っています。

○議長（初村　久藏君）　１０番、小島徳重君。

○議員（１０番　小島　徳重君）　今、部長のほうから一つ、二つ上がりました。私がいただいた表の中でもこういうことがありますよね。先ほど午前中に糸瀬議員さん質問された中にふるさと納税のこともありました。これ企業版も含めてありました。そして私、これ実現したらいいんじゃないかなというのが、ここに書いてあるのは入島税の導入検討というのがございますよね。このあたりは具体的にどういうことを想定されての入島税というのがプランとしてあるのか、どうですか。

○議長（初村　久藏君）　市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝　尚喜君）　入島税ということよりも今現在、国際ターミナルの使用料を１人２００円ということで取り決めておりますけども、厳原で今、新築工事をしております国際ターミナルが完成、落成した折には、ここを今、大体、福岡とか釜山とかも調べてみても大体１人５００円程度になっているというようなことから、５００円に上げていこうということで今、検討を進めているところであります。１人５００円となりますとかなりの財源がここで生まれるものというふうに期待をしているところであります。

○議長（初村　久藏君）　１０番、小島徳重君。

○議員（１０番　小島　徳重君）　この入島税関係は自治体でいろいろ研究しているところがありますよね。かつて対馬市が合併した当時に松村市長時代にも島外からハンターを呼び込むとかということが議会でも話題になったということを記録で読みました。それから最近では海のほうのダイビングなんかで入ってくる人からお金いただいて、入島税関係でいただこうかなと。それか

らその際には今度はダイビングするときに食害魚なんかも駆除してもらうための方策もあるとか、いろいろな方策があると思うんです。それでやはりそのあたりを行政でしっかり、これしまづくり推進部でできることじゃない、多分横の連携、そのためにこういうふうな役所の中では政策体系を見直すと、既存の計画と政策体系を見直すために横断的な役所の組織を動かさなきゃいけないということになっていて、そのために役所のほうは人的な配置というか、そういうことを打ち出してあるみたいですが、そのことを説明してみてください。

○議長（初村　久藏君）　しまづくり推進部長、伊賀敏治君。

○しまづくり推進部長（伊賀　敏治君）　横断的な庁内調整とかという意味だと思うんですけども、全ての事業が一つの部署、部、課でできるものではないと思っていまして、今言う市長の入島税にしましてもそうですし、先ほど私が言った海ごみアートとかについても、ＳＤＧｓ自体が今はＳＤＧｓ推進課はありますけども、全ての部署で取り組んでいるものが既にＳＤＧｓになっていることもありますし、今のＳＤＧｓでいけば海ごみを今テーマにしていますので環境政策課との調整も必要でありますし、そういった意味では庁舎内の縦連携はもちろんですけども、横連携を深くしていくというようなところは重要だというふうには考えております。

○議長（初村　久藏君）　１０番、小島徳重君。

○議員（１０番　小島　徳重君）　具体的なことを申し上げますよ。ＳＤＧｓ推進員制度というのが発足しているんじゃないですか。この前、会議１回目が行われたんじゃないですか。（発言する者あり）でしょう。それで私気になったのは、その会議が年に１回ということになっていましたよね、設定されてね。年１回で庁舎内の横連携を取って、そして横断的な施策を打ち出すということが可能なのかなと思ったんです。このことは市長に御判断いただかないといけないと思うんですが、いかがですか。

○議長（初村　久藏君）　しまづくり推進部長、伊賀敏治君。

○しまづくり推進部長（伊賀　敏治君）　ＳＤＧｓ推進本部会議につきましては、市長を本部長として各部長が入って、今のところ年１回しかしておりませんけども、その下に作業部会とかというのもつくれるようになっておりまして、そちらのほうには課長クラス、課長補佐に入ってもらって作業部会、そのテーマに沿った作業部会というのを年に数回実施はしております。

○議長（初村　久藏君）　１０番、小島徳重君。

○議員（１０番　小島　徳重君）　私が言ったのは、課長補佐、係長、あるいは主任クラスまで入った会議が年１回でいいのかと聞いているんですよ。もう少しやっぱりしないと、とても市役所の組織を動かすのには不十分じゃないかなというふうに感じましたので、これは役所の中のことですから今から動かしてみてくださいよ。

　それから、こういうことがありました。政策提言を民間からとかＮＰＯとかいろんなところか

らも受けようと、そしてアイデアを出してもらおうというふうなこともこの計画の中にありますが、そのあたりについてはまだ動き出していないんですかね。

○議長（初村　久藏君）　しまづくり推進部長、伊賀敏治君。

○しまづくり推進部長（伊賀　敏治君）　まだ実績としてはありませんけども、ＳＤＧｓのパートナー制度とかありますので、そこの中には大企業をはじめとする企業、大きな企業さんもパートナーズということで登録もしてもらっておりますので、今後そういったところとの話をしていく中で提案とかそういったものを出していただけるような話をしていきたいというふうに思っております。

○議長（初村　久藏君）　１０番、小島徳重君。

○議員（１０番　小島　徳重君）　大いに期待して行政のほうの話はそれで区切りにしたいと思います。

７月２８日の対馬新聞にこんな記事が載りました。「対馬の可能性に目を」ということで、これは民間女性の方の投書でした。グリーンカーボン、それからブルーカーボン、こういうことをもっと進めたらどうかと。それから漁礁関係もこういうことが書いてありました。漁礁もいろいろあるんだけど小型の藻場礁等の設置をし、藻場を再生し、磯焼け問題の解消に取り組む。それから産卵場近くのところには磯焼け対策を兼ねた海藻が生育をするための必要養分を混ぜ込んだ消波ブロックや小型漁礁の設置とか、こういうことが民間の方が既に考えてありますよね。やっぱりこれ、ＳＤＧｓを打ち出して未来都市としてやろうというなら、そういういろんな民間の方々の知恵、ＮＰＯ等とか団体、あるいは企業からの知恵を吸収するような施策を打ち出さないといけないんじゃないかと思うんですが、市長どうですか。

○議長（初村　久藏君）　市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝　尚喜君）　このことに関しましてはＳＤＧｓにも大いに関連するところでありますけども、今現在、対馬市でもこのブルーカーボン、そしてまたグリーンカーボン、ここら辺を含めたところの事業認定ということで、全国で５地区を選定された中の一地区として上対馬地区でも実施がされて、今現在も既に実施がされております。ここの事業と申しますのが、この港の中で藻場等の海藻の種苗を消波ブロック等に活着させまして、これを全島の港に広く植え付けていこうというような事業でございます。これ国のほうから採択をいただいた事業でございます。

それとあと１点が、今、対馬市の上対馬漁協のほうが選定をされたわけでございますけども、今水産庁が支援を進めております海業の関連でございますけども、あくまでこの水産業の関係の海業と観光関連等を融合させた取組ということで、特に対馬の中では今、美津島町の犬束さんあたりが一生懸命取り組んでおられます。これをまた全島的に進めていこうということで、今、上対馬のほうで漁協が中心となって進めていくということで取り組んでいるところでございます。

これも一つの大きく考えればＳＤＧｓの関連ではないかというふうに考えております。

○議長（初村　久藏君）　１０番、小島徳重君。

○議員（１０番　小島　徳重君）　今の市長の最後のまとめにＳＤＧｓ未来都市計画でそれを打ち出してあるわけですから、今、市長、最後におっしゃったその言葉が行政の中でも、それから民間の間でもよくもまれるようにしていないと、また空文句の念仏になって、だから対馬産業、経済が潤わないからということで対馬のビジョンと合わないような計画がまた出てくるかもしれません。それを強くお願いをして、このことは終わりたいと思います。

それから次は、市長に尋ねたいんですが、ろくべえを最近食べられましたか。いつ頃ですか。

○議長（初村　久藏君）　市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝　尚喜君）　この８月の初めぐらいにたしか料亭のほうで食べさせていただきました。

○議長（初村　久藏君）　１０番、小島徳重君。

○議員（１０番　小島　徳重君）　市長は料亭でということですから出るところには出るんですけど、私、食べようと思ったら、いや欠品ですよと言われて食べられませんでした。自宅では私も半年前ぐらいに食べたのが記憶にありますが、このろくべえについては、先ほど市長答弁をいただいたように品不足に陥っています。そしてこれはもう言われた要因は、芋の栽培面積減っている、それからせんだんごを作るのに手間がかかるから担い手がいなくなっているということですからね。先ほどの答弁で市のほうも補助の制度を考えようということですから、ぜひこれは実現してください。

そして、これは土地によって、水によっても出来方が違うし、そしてばあちゃんから嫁、嫁から子とかつながっていったそういう伝統的なものですから、その人たちが職業として成り立たなくても、やっぱりある程度の経済的な収入が得られるような価格でせん、芋を作ることに金を出す方法もあるでしょうし、せんとして買い取るときに価格を上げてやると。そうすると作る人が出てくるし、引き継がれるんじゃないかなと思いますので、ぜひ期待をしておきたいと思います。

それで、この量として把握できていないということですが、私、ある専門に扱ってある方に聞きましたら、ここ二、三年でいわゆる入ってくる品物の量が半分くらいに落ちてしまったということをおっしゃいました。そして今まで在庫で持っていた分で今かろうじてしていると。だけどもこのままの状態の生産量では一、二年たったらいわゆる食品として出せないようになるということを心配してあります。だからこれぜひ何かプロジェクトチームなりつくって、そして検討いただければと思っておりますが、そのあたりは先ほどの答弁で具体化するためにどういうふうな手だてを取られるか、ちょっとお話を聞かせてください。

○議長（初村　久藏君）　市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝　尚喜君）　このろくべえにつきましては、先ほども答弁いたしましたが、対馬のスローフードとして味の箱船にも登録もされております。そのような関係もありまして伝統的な食品ということで今後も保存をしていきたいと思っておりますが、ただ、要は継承者がだんだん少なくなってきているということで、その原因はというのが、やはり芋の生産量の減少ももちろん大きな原因でありますけども、作った方たちの収入と申しますか、そこがなかなか少ないというようなことが大きな原因ではなかろうかというふうに私は分析しております。そこで指示をしていますのが、要はその生産者から店に卸すときとか、そういったときに買い上げてもらうときにその買い上げてもらった領収書等を基にして幾らかバックで生産者に補助することができんかというようなことでそこら辺の研究をしてくれというようなことで今、指示をしているところでございます。

○議長（初村　久藏君）　１０番、小島徳重君。

○議員（１０番　小島　徳重君）　これ、先日、朝日新聞の声の欄に載りました。若い頃に対馬に赴任された方がそれを食べてその味が忘れられないということです。心も体も元気もりもり、ろくべえは家族の温かさを感じる麺となりましたというような記事が載りました。

それからよりあい処つしまですね、ここもいつも大体飲み会、宴会したら終わりにろくべえが出よったみたいですね。それがなくなったから行く楽しみがなくなりましたという福岡の愛好者の方の声も聞いています。対馬島内でもすぐ行って食べられない、欠品というのが出ていますので、十分実態を踏まえてよろしくお願いをしたいと思います。

以上で終わります。

○議長（初村　久藏君）　これで小島徳重君の質問は終わりました。

○議長（初村　久藏君）　暫時休憩します。再開は２時１０分からといたします。

午後１時55分休憩

午後２時10分再開

○議長（初村　久藏君）　再開します。

引き続き、市政一般質問を行います。６番、伊原徹君。

○議員（６番　伊原　　徹君）　よろしいですか。今日は標準語でしゃべりたいと思います。

初めに、市長として２期目を迎え、３年７か月を終えようとしています。昨日の定例会初日に核ごみ受入れが８対１０の僅差で決定いたしました。市長は、本定例会最終日には核ごみ受入れの御決断をなされると思います。このことにつきましては、市長御自身が懸念されていました市民の分断を招いていますので、対馬市のトップとして市民の皆様へ安心、安全な生活へ導いてい